

評価結果公表票

【評価実施概要】

事業所番号	270201734
法人名	医療法人楽清会
事業所名	グループホームききょうの
所在地	弘前市大字桔梗野1-2-3 (電話) 0172-33-3674
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成19年6月15日

【情報提供票より】(平成19年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 4人, 非常勤 10人, 常勤換算 6.25人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	2 階建ての	1 ~2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	4,200円(16室)、8,400円(2室)	円	その他の経費(月額)	おむつ代ほか	円
敷 金	無				
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無		
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日当たり		945	円	

(4) 利用者の概要(4月1日現在 )

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	2 名	要介護4	5 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	68 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	(財)鳴海研究所 清明会 鳴海病院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

代表者の配慮により、ホーム内のいたる所には季節の花等が飾られており、温かい雰囲気作りに努めている。また、職員は利用者のペースを大切にし、温厚な態度でゆとりを持って接するほか、一人ひとりの羞恥心やプライバシーに配慮したケアを提供するよう努めている。

管理者や職員は地域密着型サービスの役割を認識するとともに、地域密着型サービスが開始されたことにより理念の見直しを行い、これまでの理念に地域密着を意識した理念を追加し、「個人の尊重」「持てる力を引き出す」「地域社会とのふれあいを大切に」という新たな理念を掲げている。理念にあるように地域に開かれたホームとなるよう、町内会に加入したり、ボランティアや実習生を積極的に受け入れる等の取り組みが行われている。

毎週日曜日は「外出の日」としており、利用者の希望や季節感、風習を取り入れながらスーパーへの買い物やミニドライブ、イチゴ狩り等に出かけ、ホームに閉じこもらないケアを提供している。

【特に改善が求められる点】

外部研修受講後には報告書を作成し、そのコピーを全職員に配布して共有を図る等の取り組みが行われているが、全職員が平均的に研修を受講するまでには至っていないので、これまでの研修主催団体に問い合わせたり、職員個々の研修受講歴を考慮し、内部・外部研修の年間計画を作成することに期待したい。

災害時に協力が得られるよう、町内の消防団と連絡を取り合う等の取り組みは行われているが、数日分の食料や飲料水等の備蓄品を用意すると、より安心なのではないか。

【重点項目への取組状況】

【各領域の取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前年度の評価結果を掲示するとともに、職員間で話し合って改善計画を立て、マニュアルを作成する等の取組みを行っている。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 会議等を通して全職員が評価の意義を理解しており、職員各自が作成した自己評価について話し合いを行い、ユニットごとにまとめ、完成させている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、取組みの報告や情報提供を行い、委員から広く意見を求め、出された意見を全職員に周知し、更なるサービス向上につなげている。今後は老人クラブの会長の参加を促したいと意欲的である。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11) 1ヶ月に1回、利用者の暮らしぶりのスナップ写真を掲載した手紙を家族に送付する等の情報提供を行っている。家族訪問時には声がけを行い、意見や要望等を聞くほか、ホーム内外の苦情受付窓口を周知し、意見等が出された時には管理者及び職員で話し合いを行い、日々のサービスに反映させていく体制が整備されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 開設当初より町内会に加入し、町内の行事に参加したり、住民に挨拶を行う等、地域の人に気軽に立ち寄ってもらえるよう働きかけを行っている。また、玄関周りに花を植える等、明るい雰囲気となるよう環境整備も行われている。運営推進会議には地域の民生委員に参画してもらい、事業所の理念や役割等について理解を促すほか、学生のボランティアや保育園児の訪問等を受け入れ、地域に開かれたホーム作りを行っている。

領域	取組み状況
I 理念に基づく運営	理念を各ユニットの掲示板に掲示するほか、会議等で管理者から職員に対して理念の意義や目的を話しており、職員は理念を自分の言葉で理解し、日々のサービスで実践している。 権利擁護事業の利用を検討した事例があり、その時に事業についての理解を深める機会を持つ等、職員は事業の概要を理解している。 虐待についても外部研修への参加等を通して理解している。また、虐待を未然に防ぐよう、職員のケアの様子を見て必要時には管理者からその都度注意するほか、虐待を発見した場合の対応についてマニュアルを作成しており、職員は内容を理解している。
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	利用希望の相談等の時には、利用者や家族の視点に立って対応し、意向にそったサービスを開始できるよう調整している。 利用者が喜びそうなことを見つけて、職員も一緒に楽しむほか、特技を披露してもらって場を盛り上げてもらったり、利用者の手作りの品を日々の暮らしで活用する等、利用者と職員が共同しながら過ごしている。
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	利用者一人ひとりの力量を把握し、その力を維持・向上できるように職員同士で話し合い、常に新しいケア方法を模索し、実行している。介護計画作成時には利用者や家族の意向を把握しており、個々の希望等が含まれた個別具体的な計画となっている。 重度化や終末期には対応していないが、いつでも相談でき、急変時等にも対応してもらえる医療機関を確保している。また、日常的な健康管理は看護師である管理者が中心となって行っている。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	利用者個々の生活リズムを大切に、急かしたり無理強いすることのないケアを日々心がけている。 身体拘束に関するマニュアルを全職員が理解し、原則、拘束は行わないという姿勢でケアを提供している。やむを得ず拘束を行う場合は、家族と相談し、期間等を明確にした上で行っており、経過観察等の記録を行いながら対応している。 食中毒防止のために調理器具等の消毒を徹底するほか、その他の感染症に関してはマニュアルを整備し、医療機関等から新しい情報が入った時等には随時の見直しを行う等、利用者の安全確保に努めている。

# 評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者及び職員は地域密着型サービスの役割を理解しており、近隣に溶け込んだサービスが提供できるよう、住民への挨拶や声がけを心がけている。また、これまでの理念に地域密着型サービスの役割を反映させた理念を追加し、「個人の尊重」「持てる力を引き出す」「地域社会とのふれあいを大切に」と掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は各ユニットの廊下掲示板に掲示するほか、会議等で職員に周知しており、職員は理念の意味を自分の言葉で理解し、日々のサービスで実践している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会に加入して町内の行事に積極的に参加したり、住民に挨拶等を行うほか、玄関周りに花を植えて環境を明るく整える等、地域の人に気軽に訪ねてもらえるよう働きかけを行っている。また、運営推進会議には地域の民生委員に参画してもらい、事業所への理解を深めてもらうほか、小学生や大学生のボランティア、保育園児の訪問を受け入れる等、地域に開かれたホーム作りを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議等で評価のねらいなどを周知しており、運営者始め管理者、職員は評価の意義を理解している。自己評価は職員に実施してもらったものをまとめて完成させているほか、前回の評価結果を受けて話し合いを行って改善計画を立て、マニュアルの作成等に取り組んでいる。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、取り組みや情報提供を行い、広く委員の意見を求めている。また、評価結果は会議で報告するほか、委員から出された意見等を全職員に周知し、更なるサービス向上につなげている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	苦情対応等、ホーム運営について相談し、助言を得るなど、行政との連携が図られている。運営推進会議には1回参加してもらったが、自己評価・外部評価の結果を報告するまでには至っていない。	○	ホームの取り組みをより理解してもらうために、自己評価や外部評価の結果を行政に報告することに期待したい。
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	県や社会福祉協議会に権利擁護事業等に関する研修について問い合わせ、管理者や職員が積極的に参加している。また、利用には至らなかったが権利擁護事業の利用を検討した事例があり、全職員で事業について理解を深める機会を持ったため、職員は概要を理解している。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加したり、パンフレットを活用して虐待について理解を深めている。時々職員が感情的になってしまう場面等を管理者が見た場合は、その都度注意し、虐待を行わないケアに努めている。また、虐待を発見した場合の対応方法等についてマニュアルを整備し、全職員に周知しており、職員は内容を理解している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は利用者や家族にホームの理念等を説明し、説明後は疑問等がないか確認している。また、契約改訂等がある場合も利用者や家族に説明し、同意を得ている。退居時には理由等を説明し、同意を得るとともに、必要に応じて退居先への情報提供等を行っている。		
10	12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回利用者のスナップ写真や暮らしぶりを掲載した手紙を送付するほか、健康状態や受診状況、職員の異動等についてはその都度報告している。また、買い物等に使用する預かり金については金銭出納帳に記録し、レシート等を添付して家族に報告し、確認のサインをもらっている。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時は声がけする等、意見等を家族が話しやすい雰囲気作りを行っている。また、重要事項説明書にホーム内外の苦情受付窓口を明示するほか、各ユニットの廊下掲示板に掲示し、利用者や家族への周知に努めている。意見や苦情等が出された場合には、それを日々のサービスに反映させていく体制が整備されている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員交代による利用者への影響を考慮し、異動や配置換えは最小限の範囲で行っている。職員の異動がある場合には利用者に説明するとともに、個人記録等を活用して職員間での引き継ぎを十分に行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員の質の確保・向上に向けた育成の必要性を認識しており、出張扱いで職員を外部研修に派遣している。研修受講後は報告書を作成するほか、報告書のコピーを全職員に配布しているが、年間の研修計画が作成されておらず、全職員が平均的に研修を受講できるまでには至っていない。	○	これまで研修を主催した団体に問い合わせたり、職員個々の研修受講歴を把握し、内部・外部研修の年間計画を作成すると、全職員が平均的に研修を受講する機会が確保できるのではないか。
14	18	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟しており、会合には積極的に参加して他事業所との交流を図り、得られた情報をサービス向上につなげている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望時の相談や見学等の時には、利用者や家族の視点に立って対応し、意向にそったサービスを提供できるよう調整している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の楽しみや喜びそうなことを見つけて一緒に楽しむほか、特技を披露してもらって場の雰囲気を盛り上げてもらったり、利用者の手作りを日々の生活で活用する等、利用者と職員が一緒に過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報や日々の会話で利用者の意向を把握するよう努めるほか、なかなか意向が把握できない利用者についてはケースカンファレンス等で情報交換を行い、把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	今までの生活背景や利用者の意向、職員の気づき、家族の意見等を踏まえて介護計画を作成しており、利用者の希望等が書かれた具体的な計画となっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間を明示しており、3ヶ月ごとに見直しを行い、利用者や家族の意見、職員の気づき等を踏まえて新たな計画を作成している。また、利用者の状況や家族の意向等に変化がないか、日々のケアや家族面会時等に把握するよう努めており、状態変化や希望の変化等、急を要する場合には随時の見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人の母体であるクリニックと連携し、長距離の通院が避けられるとともに、緊急時や入院加療が必要な場合の即時対応等ができる体制となっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受療状況を把握しており、かかりつけ医や協力医療機関、母体のクリニック等、希望する医療機関で受診することができる。また、ほぼ毎日医師がホームを訪れており、いつでも相談することができる。受診結果等は家族が直接医師から聞く仕組みとなっており、その後のホームとの情報の共有も行われている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期への対応は行っていないが、医療的な対応が必要な場合や急変時には母体クリニック等の協力が得られる体制が整備されている。また、日常的な健康管理は看護師である管理者が中心となって行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの言動を否定しないとともに、トイレ誘導時は羞恥心に配慮し、「トイレはどうですか？」等の声がけをしないことを心掛けている。職員は個人情報保護を理解しており、個人情報が入ったファイル等は事務室の戸棚に保管している。また、日々の利用者への対応に問題等がある時にはユニット会議や引継ぎ時等に随時話し合いを行っている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の言動を急かすことなく、ゆったりと対応するほか、利用者の希望や訴えに対しては早めに対応するように心がけている。また、その日の体調や気分等を考慮し、柔軟に対応するよう心がけている。		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは週単位で食材と一緒に外注しているため、事前の調整や行事食を実施する時には利用者の希望を取り入れている。野菜の皮むき等の下準備や盛り付けなどは利用者到手伝ってもらうほか、職員も利用者と同じ食事を摂っており、さりげないサポートを行いながら会話等を楽しんでいる。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人での入浴やシャワーだけの利用等、一人ひとりの習慣や好みを優先するほか、入浴日や時間帯等の希望に合わせた支援を行っている。また、入浴を拒否する利用者には時間をずらしたり、他の利用者に誘ってもらう等の工夫が行われている。入浴時は利用者の羞恥心等に配慮して対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の言動や家族からの情報を基に一人ひとりの得意なこと等を把握しており、手芸やクラフト、ハーモニカ等の楽しみごとや、食事の盛り付けや茶碗拭き等の役割を、その場の雰囲気や利用者の状況を見ながら促している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎週日曜日は「外出の日」としており、利用者の希望を聞き、スーパーへの買い物等、順番に出かけている。また、ミニドライブやイチゴ狩り等、季節感も取り入れて外出先を決めている。利用者の身体状況やその日の気分、体調等に合わせた歩行距離を考慮する等、個々に応じた支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを整備し、全職員が理解しており、原則、拘束は行わないという姿勢で日々のケアを実践している。やむを得ず拘束する場合には家族に相談し、期間等について同意の署名をもらった上で、経過観察等の記録をしながら対応している。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけておらず、外出傾向のある利用者に対しては見守りを徹底している。外出傾向を察知した時には付き添って町内を散歩する等の支援を行っている。安全のため、窓が大きく開かないようにストッパーをつける等、やむを得ず施錠する場合には理由を明確にし、家族の同意を得て行っている。また、無断外出時に備えて近隣の店舗等の協力が得られるよう働きかけを行っている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難誘導等の役割等が明確に示されているマニュアルを整備しており、定期的に避難訓練を実施している。災害時に近隣からの協力が得られるよう、町内の消防団と連絡を取り合う等の取り組みは行われているが、食料や飲料水等の非常用物品を用意するまでには至っていない。	○	数日分の食料や飲料水、寒さをしのげる物品等の備蓄品を用意してはどうか。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体クリニックと一緒に食事を業者に依頼しており、栄養士により作成された献立となっている。摂取カロリーは約1,600キロカロリー、水分量は約1,000ccから1,500ccとなっており、摂取量はホーム日誌に記録している。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	食中毒防止のために雑巾やまな板は毎日塩素消毒するほか、その他の感染症に関してはマニュアルを整備し、感染症流行時等には見直しを行っている。また、全職員に周知徹底できるようマニュアルをいつでも閲覧できる場所に置くほか、適宜勉強会を行っている。感染症流行時には手洗いやうがいの徹底等を利用者や家族に周知している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木彫りの自然な色合いの調度品や淡い色合いのカーテンを設置する等、柔らかい雰囲気となるよう配慮している。食事の時はテレビを消す等、音量に配慮するほか、職員の立てる物音や声のトーンも適切である。また、日射しの強さはカーテンで調節しており、室内の明るさは適当である。ホーム内には季節の花が飾られているほか、壁等には職員手作りの季節感のある装飾品が飾られている。		
		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド等、備え付けの家具はあるが、なるべく自宅で使用していた家具類を持ってきてもらうよう家族に働きかけており、テレビやソファ、チェスト等が持ち込まれている。また、視力障害や身体状況、活動状況等を考慮し、飾りつけや家具の配置等、一人ひとりに合わせた空間作りが行われている。		

※  は、重点項目。